

令和 5 年 6 月 17 日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K01176

研究課題名(和文) 地理教育を通じた児童の持つ地理的概念の変化と発達に関する研究

研究課題名(英文) A study on the change and development of geographical concepts held by children through geography education

研究代表者

田部 俊充 (TABE, Toshimitsu)

日本女子大学・人間社会学部・教授

研究者番号：20272875

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：まず、日本の地理教育における地理的概念の教授による変容についての整理を行った。また、英語圏の地理教育におけるラーニング・プログレッションズ研究の整理を行った。

地理教育を通じた児童の持つ地理的概念の変化と発達に関する研究のために、ラーニング・プログレッションズを念頭に置いた地理的な概念変化を促す実験授業を行い、日本地理教育学会、日本地理学会、日本地図学会などにおいて発表した。田部は小学校第5学年における地球温暖化に着目した社会科の授業実践を行い、地理的概念の変容モデルを構築し、よりよい地理教育カリキュラムや教材、教授法の試案を提示することを試みた(田部ほか2022)。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ラーニング・プログレッションズを念頭に置いた地理的な概念変化を促す実験授業を実施した実践をフィールドワーク、授業実践を踏まえた概念変化研究を通じて、地理的概念の変容モデルを構築し、よりよい地理教育カリキュラムや教材、教授法の試案を提示することが出来た。

研究成果の概要(英文)：First, we summarized the transformation of geographical concepts through teaching in geography education in Japan. We also organized the Learning Progressions research in geography education in English-speaking countries.

To study the change and development of geographical concepts held by students through geography education, he conducted experimental lessons to promote geographical concept change with Learning Progressions in mind, and presented his findings at the Japanese Association of Geography Education, the Geographical Society of Japan, the Cartographic Society of Japan, and other conferences. Tabе conducted a social studies class focused on global warming in the fifth grade of elementary school, constructed a model of geographical conceptual change, and attempted to present a better geography education curriculum, teaching materials, and teaching methods (Tabе et al. 2022).

研究分野：地理教育

キーワード：地理教育 地理学 ラーニング・プログレッションズ 地理的概念変化 授業実践

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 学術的背景：地理的概念を教育内容として取り扱う研究の不在

2020年から小中高と段階的に改訂される新しい学習指導要領において、高等学校の地理歴史科に必修教科目として地理総合と歴史総合が設置されることになった。

この学習指導要領の改訂は、必修修化といった制度的な面だけではなく、学習内容においても地理にとっては大きな転換点でもある。地理的な概念に基づいた地理教育の再構成を行っているからである。これまでの学習指導要領でも一定の観点をもって地理を教授することは論じられており、特にどのような、そしてどの程度の地誌的な内容を取り上げるのかに注目して教授する内容を決定してきた感がある。しかし、今回の改訂では、中高等学校では、国際地理学連合(IGU)の『地理教育国際憲章』に示された地理教育で取り扱う内容の5大テーマに基づいた観点を地理的な事象を分析、解釈して課題を探究し、解決策を構想することを学ぶ。5大テーマとは地理学の重要なテーマである①位置・分布、②場所、③地人相関、④地域間の相互作用、⑤地域である。小学校の段階では、①位置・分布と②場所を中心の観点としている。

児童・生徒は生活の延長線上で学校教育以前に様々な概念や思考を身に着けている。授業により、すでに持っている地理的な概念や思考を発達させていくという考え方で教育が行われてこなかった。このことが地理教育の一貫したカリキュラムの問題点といえる。

(2) 学術的問い：児童・生徒が地域に関する概念変化をどのように成し遂げるのか？—概念変化を取り上げるラーニングプログレッションズアプローチの地理への適用

近年、児童、生徒の持つ素朴な概念や思考が教育により比較的長期にわたり変化・発達することをモデル化する「ラーニング・プログレッションズ」研究が理科教育では行われている。認知発達による概念変化による研究と、教授にもとづく概念変化の研究の知見を結び付けた研究である。例えば、物質の原子論・分子論を理科で考える際、「ものは何からできているのか」、「ものの形状が変わるとき何が変化し、何が不変なのか」、「変化を私たちはどうやって知るのか」が重要な問いになる。幼児期からすでにこの3つの問いに関わる概念や思考をすでに獲得しているので、授業を受ける以前にこれらの問いに答えることはできるが、不十分で素朴な答えでしかない。この素朴な概念や思考を出発点として、原子論や分子論に必要な概念や思考へ到達するために、授業を通じた概念の獲得について検証することで、よりよい単元デザインや教授方法をエビデンスに基づき提案することができる。

このことは地理でも同じように考えることができる。例えば地域といった概念は授業を受ける前から素朴な状態で児童、生徒は一定の理解を示すことはできる。しかしながら、「地域は何からできているのか」、「地域に変化がみられるとき何が変化し、何が変化しないのか」、「地域を私たちはどのように知るのか」といった問いを設定し、すでに持つ地域に関する概念を教授により、さらに必要となる概念や思考へ到達するような授業の内容や方法を検討することで、科学的なエビデンスを持ちながら地理教育を発展させていくことができるのではないだろうか。ラーニング・プログレッションズを地理に適用する研究はアメリカ合衆国を中心とする研究グループで取り組まれている。アメリカ地理学会の地理教育ディレクターであるマイケル・ソルムを中心として Solem, M. et.al(2014): “GeoProgressions: Learning Progressions for Maps, Geospatial Technology, and Spatial Thinking” AAG が出版され、地理教育のうち、空間的な概念や操作を取り扱う部分に注目した研究が開始された。その後、地理教育におけるラーニング・プログレッションズ研究は世界各国で取り組まれ、Solari, O. et.al(2016): “Learning Progressions in Geography Education” Springer が出版された。オーストラリアやイングランド、シンガポール、ドイツなど古くから地理教育が盛んな国だけでなく、中国などでもそのような研究が登場している。しかしながら、日本の地理教育の研究を見る限り、このアプローチによる研究は全く見られない。地理の様々な概念や思考を科学教育の延長線上に据えて検討する研究が日本に存在しない状態にあり、周回遅れの状態になっている。

## 2. 研究の目的

本研究は児童・生徒が元来持つ地域やスケールなどの地理的な概念や思考が教授によりどのように変化するのか、そして教師やカリキュラム策定者は生徒をどのような地理的な概念や思考に到達させたいのかについて、理科教育などで取り組まれている教授による概念や思考の変化をとらえる「ラーニング・プログレッションズ研究」を活用して検討する。日本の地理教育においてラーニング・プログレッションズ研究はみられないが、海外の地理教育では数多く取り組まれている。海外の事例の中で、特に社会をとらえる際の地理的な概念・思考の教授による変化のあり方を整理した後、日本の地理教育が設定する到達目標はどのような概念や思考の変化を要求するのかを整理し、教授による変容プロセスを検討する。また、それらの変容を促す授業のあり方を実験授業から検証する。以上を通じて、小中高を通じた地理的な概念の変容のモデルを構築するとともに、新たな授業の目標を提示することができる考えた。

### 3. 研究の方法

本研究においては、①英語圏における地理教育におけるラーニング・プログレッションズ研究の整理、②日本の理科教育などで行われているラーニング・プログレッションズ研究の整理、③日本の地理教育で取り上げられる地理的な概念の現状についての整理、④アメリカイギリスやシンガポールでのラーニング・プログレッションズ研究の現状やそれらの国での実際の授業や教員の意識についての現地調査、⑤日本における実験授業を実施した。

### 4. 研究成果

#### (1) 2019 年度の研究成果

研究代表者の田部は日本地理教育学会（8/22）において地理的概念の入門期における位置的内容の教授についての基礎的研究の共同発表を行った。7月には東京都中野区の中学校において、「北アメリカ州」の移民の学習について、生徒が持つ地理的概念である「移民」についてどのように変化するか実験的に試みた。11月、12月には東京都の小学校2校の第5学年社会科出前授業において、世界の学習のなかで地球温暖化に対する児童の考えを深めるための教材開発を行った。2020年度以降、地理的概念の教授による変容について授業分析を行った。研究協力者の寺本は兵庫県南あわじ市の小学校において実験的な出前授業を実施した。これは兵庫県及び淡路島内の産業や観光資源に関する内容を児童がメンタルマップとして形成することを促す地図教材の開発につながる授業として実施した。

また、国内外のラーニング・プログレッションズ研究の文献を収集し整理した。日本では理科教育の先行研究が多く見つかった。研究代表者の田部は2月に米国ロサンゼルス小学校、高等学校の地理の授業を参観し、教員に取材し、カリキュラムや使用している教科書等を収集することが出来た。研究分担者の寺本は、地理教育を題材にしたラーニング・プログレッションズに類する研究例を調べるため、NCSS（全米社会科協議会）アトランタ大会（11月22-24日開催）に参加し、NGS（ナショナルジオグラフィック社）やいくつかの州の教員による発表を視聴した。その結果、ICT活用の地理学習や州を単位にした地理概念の指導に力点を置いたアメリカの傾向がつかめた。

#### (2) 2020 年度の研究成果

海外の文献を整理し、第70回日本地理教育学会大会（2020年8月14日）（オンライン開催）シンポジウムにて企画趣旨、討議の司会進行（寺本潔玉川大教授）、基調提案（大西宏治富山大教授）、コメント（田部）として発表を行った。田部は日本地理学会シンポジウム（第38回日本地理学会地理教育公開講座のテーマ「世界地誌学習の新たな方向性—東南アジア・オセアニア—」（2020年11月21日）（オンライン開催）のオーガナイザーを務め、「世界地誌学習の新たな方向性—東南アジア・オセアニア—」を発表し、地誌学習とラーニング・プログレッションズの関係性を検討した。田部は日本地理学会シンポジウム（第39回日本地理学会地理教育公開講座 テーマ「世界地誌学習の新たな方向性—アメリカ地誌から多文化共生社会を考える—」（2021年3月28日）（オンライン開催）のオーガナイザーを務め、「企画趣旨：世界地誌学習の新たな方向性—アメリカ地誌から多文化共生社会をめざす地理教育—」を発表し、地誌学習とラーニング・プログレッションズの関係性を検討した。

また田部は2021年1月23日に東京都杉並区立久我山小学校第5学年1組で中国・深センでの取材をもとにしたこれからの情報産業・観光産業・自動車産業・地球温暖化・ESD・SDGsを意識した出前授業を行った。ラーニング・プログレッションズを念頭に置いた地理的な概念変化の分析を大西と共同で行っている。寺本は予定していた北海道札幌市の小学校及び熊本県阿蘇市小学校における児童の地理的概念形成に関する実態調査と教材開発、および実験的な授業開発は新型コロナ拡大により、当地の学校から来校を許可されずに、実施できなかった。

#### (3) 2021 年度の研究成果

2021年度は、IGUをはじめとする国外の学会で発表する予定であった。しかし、コロナ禍のため海外出張が不可能となってしまったため、2020年8月14日の第70回日本地理教育学会シンポジウム「地理的見方・考え方と概念形成」の発表を振り返った。コーディネーターの寺本潔氏（玉川大）の問題意識は、小中高校の各学校段階での実践をもとに地理的見方・考え方の具体的な指導場面や基本的な概念形成の課題や方向性についての議論を深めたい点にあった。大西宏治氏（富山大）からは、「児童の地理的概念の獲得様式と地理教育—LPsアプローチの応用—」というタイトルで、児童の学習する地域や地図などの地理的概念の教示について、理科教育などで行われているLPs概念を用いて検討した。今後一貫カリキュラムを検討していく上で心理学などで研究が進む概念変容に関する研究が示唆を得た。田部は地理的概念の教育上の取り扱いや教授により達成すべき到達目標、その指標の整理を行い、2021年1月23日に東京都杉並区立久我山小学校でラーニング・プログレッションズを念頭に置いた地理的な概念変化を促す実験授業を実施し、大西、寺本と協力しながら国際的動向を踏まえた学術論文を作成した。小学校第5学年における地球温暖化に着目した社会科の授業実践では、海外フィールドワーク、授業実践を踏まえた概念変化研究を通じて、地理的概念の変容モデルを構築し、よりよい地理教育カリキュラムや教材、教授法を提示することが出来た（田部ほか2022）。

#### (4) 2022 年度の研究成果

2021 年度はコロナ禍のため海外出張が不可能となってしまったため、2022 年度は科研費（基金分）の補助事業期間延長を行い、研究を総括した。2022 年度は、地理教育を通じた児童の持つ地理的概念の変化と発達に関する研究のために、杉並区立久我山小学校でラーニング・プログレッションズを念頭に置いた地理的な概念変化を促す実験授業を実施した実践を日本地図学会において発表した。小学校第 5 学年における地球温暖化に着目した社会科の授業実践を海外フィールドワーク、授業実践を踏まえた概念変化研究を通じて、地理的概念の変容モデルを構築し、よりよい地理教育カリキュラムや教材、教授法の試案を提示することが出来た（田部ほか 2022）。寺本（2022）は、令和の次期学習指導要領改訂（小学校社会）に向けての 10 の改善提案として、小学校第 4 学年の学習指導要領で「47 都道府県 の名称と位置 を理解できるようにすること」は明記されてはいるものの、日本の七地方名称と地方に属する都道府県は一切扱われていない点を中心に次期改訂に向けての課題 を整理した。今後に向けて、児童の持つ地理的概念の変化と発達に関する研究は、コンテンツ・ベースとコンピテンシー・ベースの調和を具体的にどのように図るか、引き続き検討したい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田部俊充・飯塚耕治・末吉実・大西さくら・郭明・本澤優果・東実優・榎本聡・清永奈穂	4. 巻 -
2. 論文標題 地図プログラミング教材・地理院地図・地図帳を活用した小学校防災教育の成果と課題 - 春日部市立幸松小・(株)ゼンリンとの学社連携からフィールドワークの活性化と地域課題の解決に向けて -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本地図学会2022年度定期大会発表論文・資料集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 寺本潔	4. 巻 124
2. 論文標題 令和の次期学習指導要領改訂 (小学校社会) に向けての10の改善提案-地理教育振興の立場から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地理学報告	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田部俊充	4. 巻 7
2. 論文標題 ラーニング・プログレッションズの研究動向を踏まえた地理教育の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本女子大学教職教育開発センター年報	6. 最初と最後の頁 7-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田部俊充・小野加菜美・下田朱莉	4. 巻 8
2. 論文標題 地理教育におけるラーニング・プログレッションズ研究の試み - 中国・深センにおける海外フィールドワークを踏まえた小学校第5学年社会科における地球温暖化対策に着目した授業実践を事例として -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本女子大学教職教育開発センター年報	6. 最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺本潔	4. 巻 11
2. 論文標題 世界自然遺産・知床の持続可能な観光を考え合う学び 他移動知床ウトロ義務教育学校での出前授業をもとにして	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 玉川大学教師教育リサーチセンター年報	6. 最初と最後の頁 109-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺本潔	4. 巻 69(3)
2. 論文標題 広義の観光資源を窓にした小中学校における地方地誌学習の提案	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 127-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺本潔	4. 巻 10
2. 論文標題 SDG s を探究する総合的学習と修学旅行指導への反映 熊本市立北部中学校の取り組みを事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 玉川大学教師教育リサーチセンター年報	6. 最初と最後の頁 95-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田部俊充	4. 巻 68(2)
2. 論文標題 第37回日本地理学会地理教育公開講座報告 世界地誌学習の新たな方向性 - ヨーロッパ・企画趣旨	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田部俊充	4. 巻 7
2. 論文標題 ラーニング・プログレッションズの研究動向を踏まえた地理教育の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本女子大学教職教育開発センター年報	6. 最初と最後の頁 7-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田部俊充・浅野由子	4. 巻 7
2. 論文標題 スウェーデン海外教育研修の概要と地域連携 ウプサラ大学とのSDG s (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) プログラムの開発に向けて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本女子大学教職教育開発センター年報	6. 最初と最後の頁 39-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田部俊充	4. 巻 723
2. 論文標題 子どもがやる気になる！テーマ別宿題・課題テーマ 私のお薦めベスト3 地理力アップの宿題・課題 地理力アップのためには幼小中高の系統的な指導が大切	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『教育科学社会科教育』	6. 最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田部俊充	4. 巻 67(3)
2. 論文標題 新・小中高地理教育における課題と展望 - 企画趣旨・「身近な地域調査」を中心に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 95-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田部俊充・郭明	4. 巻 9
2. 論文標題 中学校社会科・高校地理総合における授業実践に向けた現地調査GIS(地理情報システム)アプリを用いた地域調査 事例:豊島区池袋地区における多言語表示の課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京家政大学教員養成教育推進室年報	6. 最初と最後の頁 165-171
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田部俊充	4. 巻 30
2. 論文標題 スウェーデン理解のための観光教育教材の開発 「世界遺産ヴィスビー」「世界遺産ピルカ」「ガムラ・ウブサラ」を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本女子大学人間社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 53-64
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田部俊充・郭明	4. 巻 6
2. 論文標題 中学校社会科・高等学校地理歴史科「地理総合」におけるGIS(地理情報システム)の導入とカリキュラムの検討 東京都における外国人人口地図の教材作成を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本女子大学教職教育開発センター年報	6. 最初と最後の頁 47-54
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田部俊充	4. 巻 6
2. 論文標題 教育政策の新しい動向と中学校教育課程の課題 社会科の身近な地域の調査を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本女子大学教職教育開発センター年報	6. 最初と最後の頁 7-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺本潔	4. 巻 7
2. 論文標題 子どもにとっての「場所の体験」と空間認識の発達	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『子ども学』（萌文書院）	6. 最初と最後の頁 68-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺本潔	4. 巻 9
2. 論文標題 教職課程の学生にとってのESD教材の意味と授業活用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 玉川大学教師教育リサーチセンター年報	6. 最初と最後の頁 47-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺本潔	4. 巻 723
2. 論文標題 地域のよさ・日本のよさを発見する宿題・課題テーマ 外国人目線で「よさ」を再発見させよう！	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『教育科学社会科教育』	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺本潔	4. 巻 2019年秋号
2. 論文標題 空間認識の発達に沿った入門期の地図指導を--第3学年単元「わたしたちのまちと市」の指導例-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『まなびと』（教育出版）	6. 最初と最後の頁 2-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 田部俊充
2. 発表標題 世界地誌学習の新たな方向性 アメリカ地誌から多文化共生社会を考える
3. 学会等名 2020年度日本地理学会春季学術大会公開シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田部俊充
2. 発表標題 世界地誌学習の新たな方向性 - 東南アジア・オセアニア
3. 学会等名 2020年度日本地理学会秋季学術大会公開シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 寺本潔
2. 発表標題 地理的見方・考え方と概念形成
3. 学会等名 日本地理教育学会シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大西宏治
2. 発表標題 地理的見方・考え方と概念形成
3. 学会等名 日本地理教育学会シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田部俊充・櫻井美砂
2. 発表標題 入門期の世界認識の発達に関する基礎的研究 M園における位置的内容の授業実践報告を中心に
3. 学会等名 日本地理教育学会第69回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 田部俊充・田尻信壹・小松伸之編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 192
3. 書名 大学生のための中等社会科・地歴科・公民科概論	

1. 著者名 田部俊充編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 126
3. 書名 大学生のための初等社会科概論	

1. 著者名 上野 和彦、小俣 利男、田部俊充	4. 発行年 2019年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 126
3. 書名 東京をまなぶ(東京学芸大学地理学会シリーズ 4)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大西 宏治  (OHNISHI Koji)  (10324443)	富山大学・学術研究部人文科学系・教授    (13201)	
研究分担者	寺本 潔  (TERAMOTO Kiyoshi)  (40167523)	東京成徳大学・子ども学部・特任教授    (32521)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関